

はなしばい台本

ヴィーナス

作 天野真由
作詞 武田直之

白い壁の前に一人の男性 オレンジのガーベラ
録画を開始する

「あー、別れた君にこんなメッセージを送るのはあまりよく思われないんだろうなってことはわかってはいるんだけど……。これだけは、言っておかなくちゃと思って。」

「うまく話せるかわかんないんだけど最後まで見てくれたらうれしい。」

「えーと、僕は今、宇宙開発センターにいて、明日金星に飛び立つ。そう、君と約束した金星だよ。信じられるかい？一億五千万キロを超えていくんだ。」

僕は今もまだ覚えている シックスティーン

あれはよく晴れた夏の日のこと 君は僕らのクラスに転校

宇宙人 君はそんなあだ名つけられていた

どうしてだか君と僕は天文部に入って

毎晩望遠鏡 星座なぞる二人の影

「それからさ、」

夜の屋上流れ星に祈る セブンティーン

どうかいつまでもここで

ふたりで一緒にいられたらなって イエイイエイ

きみは言ってた ぼくは知ってた

SF小説のような話 信じてなどなかった

居なくなってしまうた 僕だけが知ってた

さよならもいえなかった でもしかたないだろう

金星人なんてそんなことありえないって思うだろう？

「あれから僕は本格的に宇宙飛行士を目指し始めた。君のおかげだよ。どうせって思ってた。買っては語りかけてた。君はどこかにいるはずだよなって。」

「ああ、つまり、僕がこのビデオで君に伝えたいのは、今でも君のことが好きだってことなんだ。」

「君を忘れたことなんてなかった。だから……」

明日はついに僕の打ち上げ予定日

ロケットに乗って君のもとへ飛んでいくよ

「この花と一緒に会いに行くから。待っていてくれよ、俺のヴィーナス。」

おわり